

公益財団法人 国家基本問題研究所
総合安全保障プロジェクト

中国軍事動向月報

2026年9月



JINF

Japan Institute
for National Fundamentals

目 次

1 全 般	・ ・ ・ 3
2 各軍等	・ ・ ・ 4
3 対台湾動向	・ ・ ・ 7
4 対日動向	・ ・ ・ 9
5 南シナ海動向	・ ・ ・ 14
6 軍事交流	・ ・ ・ 17
参考文献	・ ・ ・ 22

中国軍事動向月報：2026 年 9 月

2026. 10. 9

国家基本問題研究所 研究員 中川真紀

1 全 般

9 月は訓練最盛期であるが、大規模な統合訓練の報道は確認されなかった。一方、長距離機動後の実弾射撃や対抗訓練等の報道は多く、レベルを上げた演習等を活発化させた。

9 月 27 日、ラオスに、中・ラオス両軍バンゲン空港共同保障訓練センター及び中国・ラオス友誼航空学院が発足した。2017 年の中国人民解放軍駐ジブチ保障基地、2025 年の中国カンボジア・リアム港共同保障訓練センターに次ぐ 3 つ目の中国軍の海外基地であり、空軍基地としては初の開設となる。中国が国境問題を抱えるインドや比、チョークポイントとなるマラッカ海峡に対しては、中国国内や南シナ海人工島の飛行場を使用したほうが距離的にも後方支援的にも有利なことから、戦術的な意義は大きくないものの、ASEAN 加盟国で中国軍基地を保有する国が 2 か国に増えたことは、同地域における中国の影響力強化の証左と言える。

日本に対しては、尖閣接続水域内で活動する海警船に、交代で常時ヘリが搭載されている状況や固定翼・無人機も尖閣編隊と協力し、活動できる態勢を維持している状況が報道された。日本への威嚇のみならず、エスカレーションラダーを上げる兆候の可能性もあり、今後の活動に注意が必要である。

軍事交流では、露戦略演習「ツェントル-2026」に参加し、中露軍事協力を深化させる一方、米国との交流も強化した。台湾侵攻を主任務とする東部戦区司令官・楊志斌上将が 2026 年アジア太平洋国防軍司令官会議に出席し、米太平洋司令官パパロ大将と会談し、高官レベルでの意思疎通の窓口を維持することの重要性について協議した。また、習国家主席の訪米間、米中両軍は危機発生時の意思疎通及びその予防措置強化に関する覚書の早期署名に合意しており、当面は米中双方とも衝突は回避したいとの姿勢を示した。

2 各軍等

(1) 全般

○ 高官の解任等¹

9月21日、中国共産党中央政治局会議は、中央軍事委員会による「張又俠の問題に関する審査結果および処分意見の報告」および「劉振立の問題に関する審査結果および処分意見の報告」を審議し、可決した。

調査の結果、張又俠中央政治局委員・中央軍事委員会副主席、および劉振立中央軍事委員会委員・統合参謀部元参謀長は、党から離反し、党の原則を見失い、レッドラインを越え、政治規律および政治規則に著しく違反し、派閥を形成し、党に忠誠を尽くさず、偽りの態度をとった。また、役職を利用して昇進に関する便宜を図り巨額の金銭を接受、違法な贈答品や礼金を受け取り、党の全面的な厳格な管理に関する政治的責任の不履行、親族や身近な職員への指導・管理の欠如等、重大な違反を行った。

以上により、両名に対し「党籍剥奪」の処分を下すとともに、党第20回大会代表の資格を取り消し、犯罪の疑いがある問題については軍事検察機関へ移送して法に基づき審査・起訴を行うことが決定された。

【コメント】

張又俠、劉振立両名は、8月28日にそれぞれ中華人民共和国中央軍事委員会副主席及び中華人民共和国中央軍事委員会委員を罷免されたことが公表されていた。今回、党籍剥奪となったことから、共産党中央軍事委員会での役職も罷免されることとなった。

処分理由として、「レッドラインを越え、派閥を形成、党に忠誠を尽くさず」等々が挙げられていることから、単なる汚職のみならず、習近平中央軍委主席の意向に背く活動を軍内で行ったために排除された可能性がある。

(2) 陸軍

陸軍長距離ロケット砲部隊とUAVの連携

CCTV「軍事報道」20260923：「長距離ロケット砲部隊が昼夜の実弾射撃訓練」

9月23日CCT「軍事報道」は、長距離ロケット砲部隊のUAVを使用した実弾射撃訓練を報道
○ 偵察分隊と火力分隊が直接情報共有し、目標情報を受領後直ちに発射できる態勢を確立



- 長距離ロケット砲ランチャーはPCH-191の可能性があり、装填するミサイルにより、射程は70～480km
- 陸軍が装備する火炮で最大の射程を有し、中国沿岸から台湾本島まで射程圏内に収めるため、着上陸侵攻時に戦況に応じ、臨機応変に着上陸部隊へ火力支援が可能
- 火力発揮には目標情報の捕捉、損害状況の把握が不可欠、UAVにより、更にその速度・精度を向上

(3) 海軍

海軍対抗部隊の整備

解放軍報20260906「海軍某基地による作戦情報データベースの整備」

- 海軍某基地訓練センターでのシミュレーション対抗訓練において、訓練潜水艦部隊は「作戦情報データベース」を活用し、仮想敵である対抗部隊艦艇の追跡に成功
- 当該基地は、ソナー員等の専門家によるデータ収集チームを編成し、遠海訓練や大規模演習を活用し、データを収集。各目標の周波数・音響特性等を分析・分類しデータベース構築
- ソナー員等によるデータベースの活用能力を向上させると共に、より精密なデータベースの更新を継続

解放軍報20260808「新型海上対抗部隊の構築」

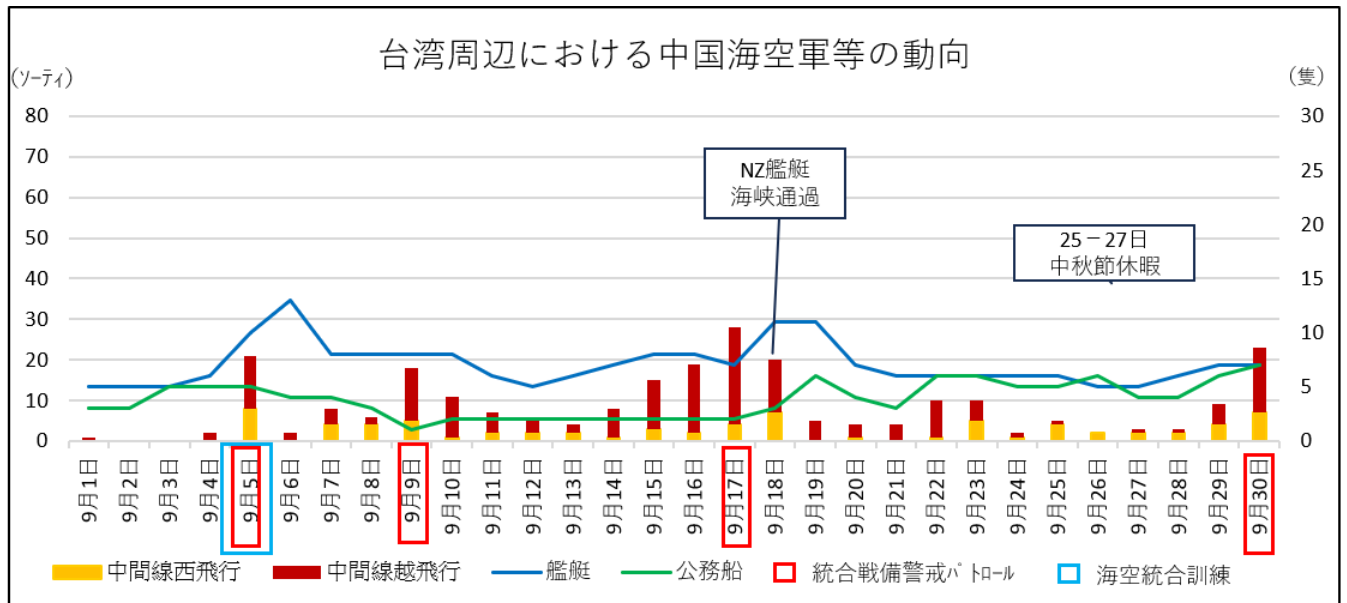
- 最近の海軍の実戦形式による対抗演習において、仮想敵を演じた対抗部隊はデジタル戦力と実際の装備を組み合わせ、陸・海・空・サイバーに渡るマルチドメイン攻撃を実施
- 対抗部隊は、仮想敵用のデータを使用し、模擬ミサイル攻撃等を実施。訓練部隊はそのデータを捕捉し、防御戦闘を遂行
- 近年、当該部隊はデータと実アセットを一体化させた海上対抗部隊を構築、より実戦に近い訓練に加え、訓練結果の判定・評価のデジタル化を行い、兵器の運用や艦隊能力の基準等を明確化

- 中国海軍が仮想敵と想定しているのは日米と思われ、日米の艦艇・ミサイル等のデータを収集してデータベースを構築し、訓練に活用している可能性有
- 中国の対抗部隊は、日米の実際の兵器性能と同じ又は模擬したデータを使用して訓練部隊と交戦、訓練部隊はより実情に近い状況での訓練を通じ、対応能力を向上させている可能性

3 対台湾動向

(1) 台湾周辺での軍の活動状況

○ 中華民国国防部発表による台湾周辺での中国海空軍の動向



(資料源：中華民国国防部 HP を基に作成)

9月には中国軍機延べソーター255 (内、中間線超えが延べ181)、中国艦艇延べ212隻、公務船延べ114隻が確認。1日における軍用機最大確認数は28ソーター、最大中間線超え24ソーター、海空統合戦備警戒パトロール4回、海空統合訓練1回であった。

9月22日、ニュージーランド国防軍は、9月18日にフリゲート「テ・マナ」と補給艦「アオテアロア」が比との共同演習参加の為、台湾海峡を通過したと公表した。2025年9月25日と11月5日に続き、直近1年で3回目²。

これに関し、中国国防部報道官は24日、「中国軍は海空兵力により、台湾海峡を通過するニュージーランド艦艇の全航程を警戒監視し、有効に対処した」と述べた³。

【コメント】

8月は台風の影響等で2回であった海空統合戦備警戒パトロールが9月は4回と通常の頻度に戻った。更に、9月からはY-8電子戦機が確認され、4回すべてのパトロールに参加した。また、5、17日にはH-6Kも参加しており、パトロールに加え電子戦対応等の訓練を行っている可能性がある。

（２）金門周辺海域での動向

台湾海巡署によると 9 月の台湾制限水域への入域は 8 日午前・午後、10 日、11 日、29 日の 5 回⁴で、8、10、11 日の入域は 4 隻で約 2 時間であった。29 日の入域の詳細は不明。

一方、中国海警東海分局報道官は 9 月 29 日、「9 月 29 日、福建海警は金門付近海域において法に基づく定例法執行パトロールを実施」と公表した⁵。

（３）東沙周辺海域での動向

台湾海巡署によると、9 月 7 日 0800、中国海警 3501 が東沙制限水域に入域した⁶。

（４）台湾東方海域での動向

9 月 3 日、中国海警局報道官は「9 月 3 日、中国海警普陀山編隊が台湾島東海域で法に従い、定例法執行パトロールを実施」と公表⁷。

9 月 29 日、中国海警局報道官は「9 月 29 日、中国海警朱家尖編隊が台湾東方海域で法に従い、定例法執行パトロールを実施した」と公表⁸。

これに対し、台湾海巡署は 29 日、「海巡署は全航程を掌握しており、29 日 1600、2503 朱家尖と 1401 崇明はそれぞれ緑島北東 97 カイリと蘭嶼東 146 カイリに位置し、海巡署艦艇が監視中である」と公表⁹。

【コメント】

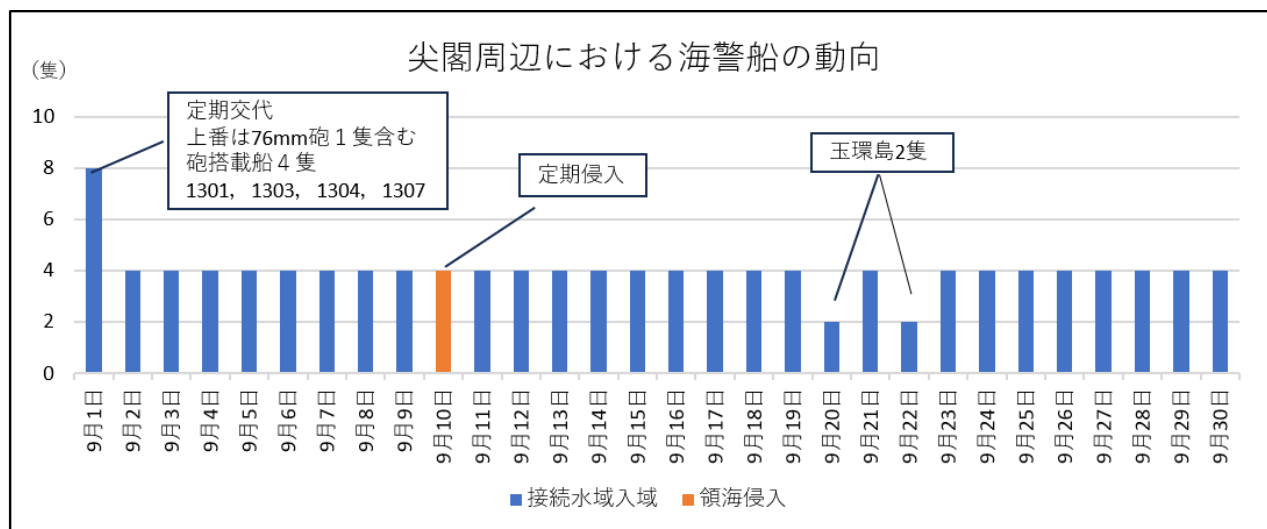
台湾東方海域での海警編隊によるパトロールは継続。

A I S 信号によれば、1306 普陀山と 2502 が 9 月 4 日まで、1401 崇明が 9 月 4 日以降上番して活動した。なお、9 月の 2503 朱家尖の位置は Marine Traffic では不明。

4 対日動向

(1) 尖閣諸島周辺での活動状況

○ 海上保安庁発表等による尖閣周辺における中国海警船の動向



(資料源：海上保安庁 HP、八重山日報を基に筆者が作成)

9月も砲搭載船4隻による活動を実施した。

定期交代は1日、定期侵入1回と変化はなかった。

○ 尖閣周辺の海洋調査船の活動

◇ 海上保安庁は、9月17～18日、久場島北北西約76カイリの我が国排他的経済水域（EEZ）内で中国海洋調査船「海洋地質七号」がワイヤー様のものを海中に伸ばしている状況を確認¹⁰。

◇ 海上保安庁は、9月18日、久場島の北北西約54カイリのEEZにおいて、中国海洋調査船「向陽紅18」が、舷側からワイヤー様のものを海中へ伸ばしている状況を確認¹¹。

海警尖閣編隊のヘリ常備化

9月10、11日、CCTV中央軍事が尖閣接続水域内で活動する海警船の艦載ヘリの活動に関し、動画を配信。主な内容は以下の通り

- 巡視船と共に艦載ヘリZ-9が、釣魚島（筆者注：原文ママ、以下同じ）と付属島嶼をパトロール
- 釣魚島領海内でヘリから島全体の輪郭を確認することも可能
- ヘリが巡視船とは別に母基地に帰投すれば、別機が交代し、一年中切れ目なくパトロールに従事
- 任務に応じ、固定翼機や無人機もヘリと連携し、パトロールに参加
- 精強な法執行部隊が、事前にヘリからのホバリング等を訓練し、パトロールに上番

（中央軍事「釣魚島の護権パトロールは1年中切れ目なく実施」20260910、中央軍事「多部隊が協同し、釣魚島と付属島嶼をパトロール」20260911）

尖閣編隊（直属第1支隊）の巡視船上に駐機するZ-9



尖閣編隊上番前に訓練する海警法執行部隊



○ 尖閣接続水域内に常駐している海警編隊は以下の態勢を常時維持している可能性

◇ 釣魚島領空を飛行したとは報道しておらず、領空侵犯はしていないものの、巡視船に常時ヘリを搭載し、領海侵入時も随時飛行できるよう準備

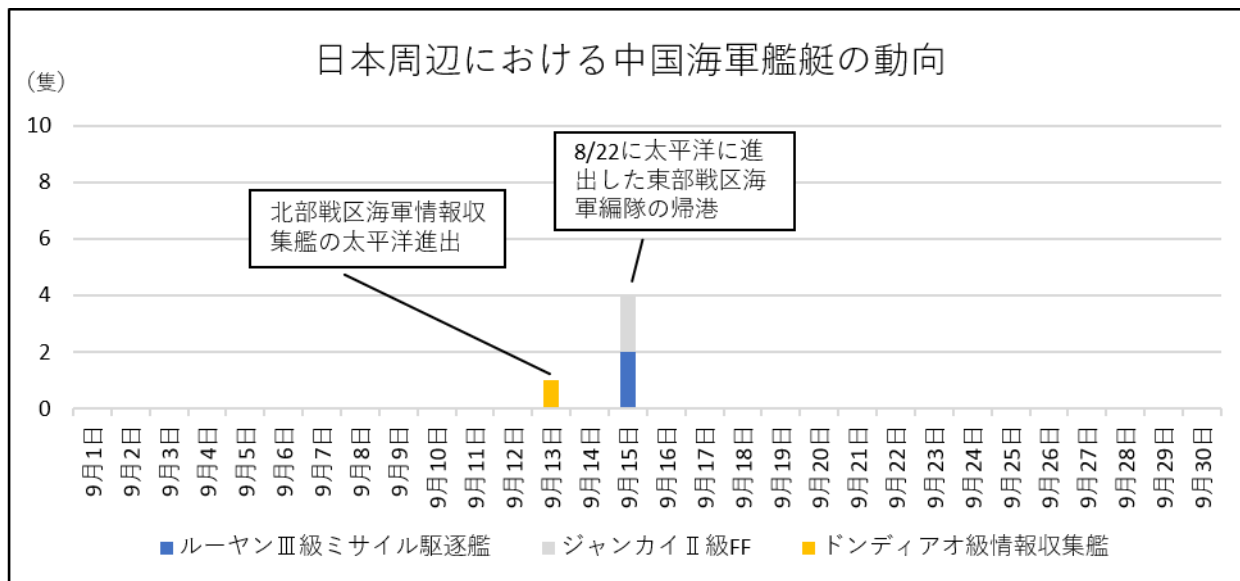
◇ 海警法執行部隊（ヘリに2名搭乗、海警特戦隊員の可能性）が尖閣編隊上番前にホバリング訓練をしており、尖閣諸島に上陸できる能力を持った隊員が巡視船内に常に待機

◇ 状況に応じ、固定翼・無人機も尖閣編隊と協力し、活動できる態勢

○ 今回の報道は、日本への威嚇のみならず、エスカレーションラダーを上げる兆候の可能性もあり、今後の活動に注意が必要

(2) 日本周辺での軍の活動状況

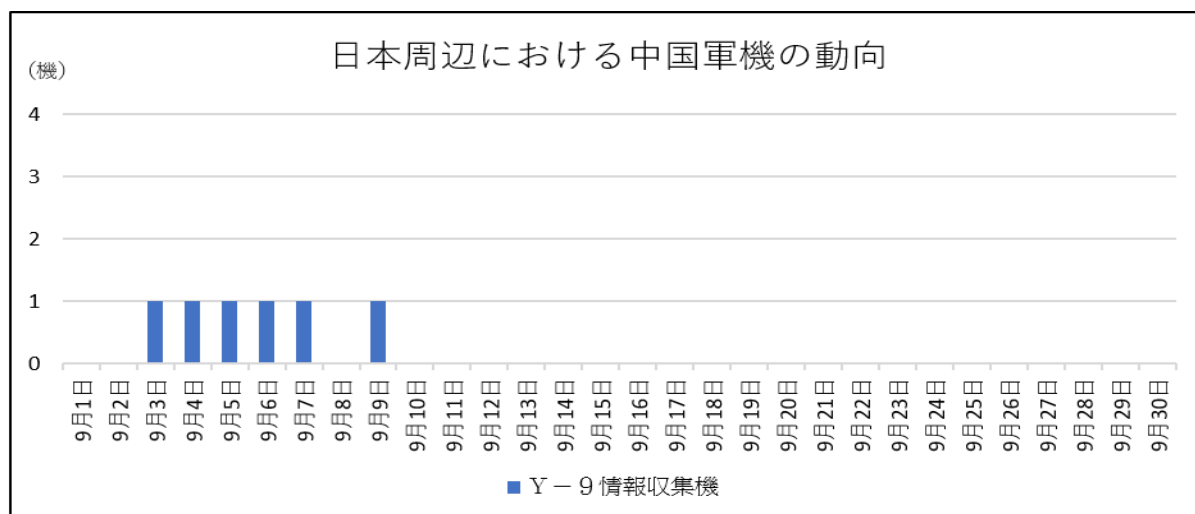
○ 防衛省統合幕僚監部発表による日本周辺における中国海軍の動向



(資料源：防衛省統合幕僚監部 HP を基に筆者が作成)

延べ 5 隻の活動が確認された

○ 防衛省統合幕僚監部発表による日本周辺における中国軍機の動向



(資料源：防衛省統合幕僚監部 HP を基に筆者が作成)

延べ 6 機が確認された。

いずれも情報収集機が、男女群島南方と沖縄本島沖を飛行した。Y-9 情報収集機は 5～7 月もそれぞれ 1 回ずつ、8 月は 3 回、同様の経路で飛行したが、9 月も同様の経路で集中的に 6 回飛行した。

同時期に関連するような日米共同訓練等は報道されておらず、目的は不明。

台湾周辺で、5 日に海空統合戦備警戒パトロール及び海空統合訓練、9 日に海空統合戦備警戒パトロールが実施され、いずれも Y-8 電子戦機が参加しており、これに連携した可能性も考えられる。

（３）対日認知戦（解放軍報、国防部の発表からの抜粋のみ）

○ 日本「新型軍国主義」の現実的脅威を警戒 解放軍報対日論文シリーズ２（４/８～）

②⑦ 「敵国条項」への再認識が強く必要¹² 黄惠康 武漢大学特任教授 9/10

○ 日本の防衛省機構改革は長期戦への備えを暴露¹³ 項昊宇 中国国際問題研究院アジア太平洋研究所 解放軍報 20260903

防衛省の大規模な機構改革は、表面的には省内の行政改革に見えるが、実際は長期戦の需要に答えるための軍事戦略の大きな変化を反映している。

○ 国防部定例記者会見（９月１４日）¹⁴

◇ 陸上自衛隊のオリエント・シールドについて

演習は「シールド＝楯」という名を使っているが、実質は攻撃的兵器の前方展開を推進するものだ。一步一步新型軍国主義の邪道な道を進んでいる。

○ オリエント・シールドの実施¹⁵ 解放軍報 20260917

米軍が初めてオリエント・シールドでタイフーンに参加させた。演習後には在日米軍基地に移動し、攻撃的兵器が前線に常時配備されることになり、アジア太平洋地域の平和と安定に衝撃を与える。

○ 歴史を銘記し、更に警鐘を¹⁶ 解放軍報 20260918

今年は九一八事変 95 周年であるが、日本の「新型軍国主義」は、まさにその正体が露呈したと言え、その禍根に警鐘を鳴らさねばならない。

○ 歴史への反省なくば、日本はいずれ、同じ轍を踏む¹⁷ 鄒皓丹 中国社会科学院日本研究所副研究員 解放軍報 20260918

九一八事変は、日本にとって最も重要な教訓であり、侵略の歴史と戦争責任を深く認識し反省しなければ、悲劇の再発は防げない。歴史への反省を欠き、「新型軍国主義」という邪道を突き進めば、日本は最終的に再び同じ轍を踏むであろう。

○ 国防部定例記者会見（９月２４日）¹⁸

◇ 日本の防衛装備品関連の新法人設立計画について

カイロ宣言・ポツダム宣言・日本降伏文書等、国際法上の効力を有する一連の文書は、日本が完全に武装解除され、再軍備を可能にする産業を維持してはならないことを明確に規定している。

◇ 九一八事変 95 周年について

今日、日本は侵略の歴史的罪責を反省するどころか、同様の手段で、所謂「存立危機事態」を名目に「再軍備化」を加速させている。

◇ 中比衝突に関する駐比日本大使の発言について

日本は南シナ海域外国でありながら、事実を無視して比に同調し、真実を歪曲しているが、その真の狙いは、南シナ海で波風を立て、自国の私利私欲を追求することにある。

○ 日本軍事 AI の危険な発展傾向を警戒¹⁹ 黄嘉瑜・孫鵬 軍事科学院 解放軍報 20260928

三菱重工、川崎重工、富士通等の企業と共に軍民共有技術の実戦化や無人機の開発を進めており、日本の軍事 AI は危険な拡張をという誤った道に進んでいる。

○ 表現の格上げと野心の増大²⁰ 劉毅・陳鵬飛 軍事科学院 解放軍報 20260928

日本の防衛白書は初めて「新しい戦い方」を章立てした。「専守防衛」から「AI による攻撃」へ、日本は技術をテコとして、マルチドメイン一体の攻撃的作戦能力の構築を加速させている。

○ 技術は制御不能になりやすく、誤判断の危険大²¹ 葛亜維・丁澤柳 解放軍報 20260928

防衛省は Sakana AI と協同し、日本の「AI 主権」を象徴すると見なされているプロジェクトを進めているが、これは技術的枠組みから産業基盤に至るまで危険なものである。

【コメント】

日本関連の記事は 12 件であり、九一八事変（柳条湖事件）に関連する記事が多かったものの、先月の 23 件から減少した。

解放軍報の紙面の多くが、習近平国家主席の外遊（キルギス、エジプト、米国）や 9 月 22 日から開催された「中国工農紅軍の長征勝利 90 周年記念テーマ展」等の国内関連記事で占められたためと思われる。

5 南シナ海動向

○ 中国によるフレアの発射

9月10日、フィリピン（以下、比）沿岸警備隊報道官は「9月7日、海上領域認識飛行を実施していた非武装の比沿岸警備隊機に対し、中国軍がスビ礁から、複数回フレアを発射した。また、ミスターフ礁でも同様の行為が繰り返された。」とXで公表²²。

○ 中比公船の衝突

9月18日、中国海警局報道官は「9月18日、中国海警『三洲澳』艇が、サビナ礁付近海域で護権法執行活動を行っていたところ、比3015号船が、中国側からの度重なる厳重な警告を無視し、意図的に進路を変更して突然加速し、中国海警艇の船首を横切るように割り込んだため、接触が発生した。」と公表²³。

9月18日、比の西フィリピン海に関する国家タスクフォースは、「18日、比EEZ内のパラワン島沖約54海里で、比漁民へ補給中の漁業水産資源局船舶MMOV 3015に対し、中国海警21585が危険な操船を繰り返した末、意図的に比船に接触し、同船に損傷を与え、民間人である乗組員の生命を危険にさらした。」と公表²⁴。

○ スカボロー礁

◇ 南部戦区

◎ 9月2日、南部戦区は「9月2日、南部戦区は海空兵力によりスカボロー礁領海領空及び周辺海空域で戦備警戒パトロールを実施した。」と公表²⁵。

◎ 9月27日、南部戦区は「9月27日、南部戦区はスカボロー礁周辺海空域で海空統合演習を実施した」と公表²⁶。

スカボロー礁周辺での統合演習に参加するWZ-7高高度大型無人偵察機



（出典左右共：南部戦区微信20260927）

◎ 9月30日、南部戦区は「9月2日、南部戦区は海空兵力によりスカボロー礁領海領空及び周辺海空域で戦備警戒パトロールを実施した。」と公表²⁷。

◇ 海警

◎ 9月27日、海警局報道官は「9月27日、中国海警はスカボロー礁付近の海域において権利保護法執行管理演習を実施し、主に臨検、突入阻止、強制排除等の法執行行動を演練した」と公表²⁸。

環球時報の報道によれば、海警は3301、3106等、トン数の異なる3隻以上の海警船が参加、南部戦区からはジャンカイⅡ級フリゲート玉林（569）、ジャンタオⅡ級小型フリゲート天門（631）、総合補給艦青海湖（885）KJ-500、WZ-7が参加し、軍と海警の統合訓練であり、外国による越境行為があれば直ちに「訓練から実戦へ」移行できる能力を示した²⁹。なお、映像からはジャンカイⅡ級フリゲート通遼（554）も確認された。

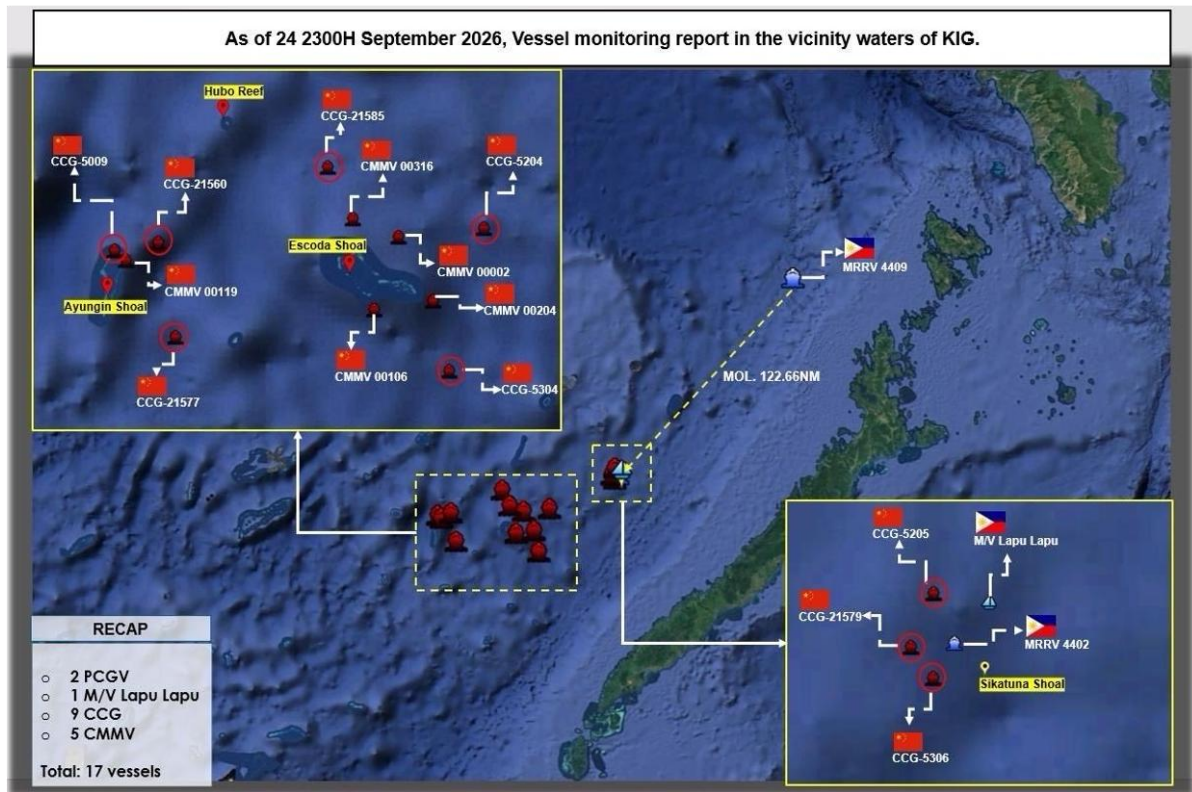
◎ 9月30日、中国海警局は、「9月30日、海警はスカボロー礁領海及び周辺区域で法執行パトロールを実施した。」と公表³⁰。

○ セカンド・トーマス礁

9月25日、中国海警局報道官は「9月24日、比は約束を反故にし、中国側の中国を無視し、セカンド・トーマス礁に不法に座礁させている船舶に補給するため一方的に補給船を派遣した。海警は法に基づき、追跡・監視・警告等の措置を採った。」と公表³¹。

一方、比の西フィリピン海に関する国家タスクフォースは9月25日、「9月24日、セカンド・トーマス礁において、比がシエラ・マドレに対し定期的を実施する補給及び要員交代任務を、中国海警及び軍が妨害した」と公表³²。

9/24のセカンド・トーマス礁（比名：アユンギン礁）周辺の中国海警・海上民兵船の位置



（出典：X:Jay Tarriela（比沿岸警備隊報道官）20260925）

【コメント】

9月25日、比海軍は、23日に西フィリピン海でASEAN 拡大国防相会議（ADMM プラス）の枠組みによる共同演習を実施したと公表。比・米・豪・日・NZ・印・星・ブルネイの8カ国から11隻の艦艇が参加した³³。

比は2026年のASEAN 議長国であり、中国は比がこの地位を利用し、南シナ海で共同演習を実施したと強く反発しており、9月27日の南部戦区及び海警のスカボロー礁周辺海空域での演習はこれへの対抗の可能性がある。南部戦区からは高高度無人偵察機も参加しており、無人機を運用した広域の監視や軍と海警の連携等を誇示したと思われる。

6 軍事交流

(1) 共同訓練

○ 中露蒙共同演習「辺防合作-2026」³⁴

9月2～3日、中露蒙共同演習「辺防合作-2026」が内蒙古自治区マンチュリ市付近の三か国の国境が接する地域で開始された。共同指揮所は露領内に設置された。

「国境地帯における偵察・破壊活動の防止と打撃」をテーマに、密輸・密入国、テロ破壊活動、越境犯罪等の国境警備上の重大なリスクを対象に、三か国の国境警備部隊の連携対応能力の検証・向上を目的として実施。

○ 中・ラオス医学救援共同演習「平和列車-2026」³⁵

9月6～14日、中・ラオス医学救援共同演習「平和列車-2026」がラオスの首都ビエンチャンで実施。同シリーズの演習としては2017年以降6回目。開会式は7日に開催された。

中国側からは150名が参加し、演習終了後はラオスの各地で医療活動を実施。

○ ASEAN 国防相拡大会議人道主義地雷除去実動演習³⁶

9月2～12日、陸軍はロシアに部隊を派遣し、ASEAN 国防相拡大会議人道主義地雷除去実動演習に参加。

○ 中・シンガポール共同演習「海上合作-2026」³⁷

9月3～9日、湛江某軍港で、中・シンガポール共同演習「海上合作-2026」を実施。両国間での第5回目の海上共同演習。両国から艦艇各2隻が参加。演習は港湾・海上の2段階で実施され、港湾フェーズは4日から、海上フェーズは8日からであり、通信訓練、海上補給、共同対海上打撃、搜索等を演練する。

○ 拡大ASEAN国防相会議人道支援・災害救援実員演習

9月22～25日、インドネシアで実施される拡大ASEAN国防相会議人道支援・災害救援実員演習に参加³⁸。

なお、自衛隊も21～25日の間、同演習に参加した。

○ 露戦略演習「ツェントル-2026」への参加³⁹

9月中旬至10月上旬、中部戦区から編成された部隊が、露戦略演習「ツェントル-2026」に参加。10月2日、ロシアのチェリャビンスク州チェバルクリ演習場にて閉幕式が行われ、数日間にわたる共同演習が終了。その他の参加国は、ベラルーシ、パキスタン、カザフスタン、キルギス、モンゴル、タジキスタンであり、情報偵察、指揮統制、火力打撃、総合後方支援などの行動について専門的な練度を高めるとともに、作戦計画の策定や実動演習を実施。

(2) 軍事交流

○ 東部戦区司令官のアジア太平洋国防軍司令官会議への参加⁴⁰

先頃（筆者注：会議期間は8/31-9/2）、東部戦区司令官・楊志斌上将を長とする代表団が、カナダ軍と米太平洋軍が共催する「2026年アジア太平洋国防軍司令官会議」に出席するため、カナダのビクトリアを訪問。同会議において中国側は、地域の平和と安定の維持に関する中国軍の立場や成果について紹介し、各国間の防衛交流・協力強化と共通の課題への共同対処を提議した。また、代表団は米、仏、シンガポールなどの代表と二国間会談も行った。

○ 中・カナダ第5回国防部実務者協議⁴¹

9月4日、カナダにおいて中・カナダ第5回国防省実務者協議が開催。双方は、共通の関心事である国際的・地域的な問題について率直かつ踏み込んだ意見交換を行い、両軍間の実務的な交流・協力を強化する前向きな意欲を示すとともに、相互理解と信頼を深めた。

○ 東部戦区司令官と米太平洋司令官との会談⁴²

8月31日、米太平洋司令官パパロ大将と東部戦区司令官・楊志斌上将はカナダで開催された「2026年アジア太平洋国防軍司令官会議」の開催期間に会談を実施した。

双方は、両軍間の誤算のリスクを低減し、安全かつプロフェッショナルな行動を促進するために、米中両軍の高官レベルでの意思疎通の窓口を維持することの重要性について協議した。

米太平洋司令官パパロ大将と東部戦区司令官・楊志斌上将



（出典：米太平洋軍20290903）

○ 中・ラオス国防相会談

9月14日、董軍国防相は北京で、カムリアン・ラオス副総理兼国防相と会談。双方は「同志兼兄弟」という特別な友好を確認した。

○ 第13回北京香山フォーラム

◇ 全般

9月15～17日、第13回北京香山フォーラムが開催。開会式は16日に行われた。

100か国以上の国、地域、国際機関の代表・学者・オブザーバー等、約2000人が参加⁴⁴。

日本からは鳩山由紀夫元首相が参加した。

◇ 董軍国防相との会談

董軍国防相は北京で、フォーラムに出席した以下の国防相等と個別に会談した。（報道順）

◎ 15日⁴⁵

- ・ミャンマー国防相
- ・ASEAN事務局長
- ・ブルネイ国防担当大臣
- ・ベラルーシ国防相
- ・アゼルバイジャン国防相
- ・キルギス国防相
- ・アルメニア国防相

◎ 16日⁴⁶

- ・タイ国防相
- ・モンゴル国防相
- ・カンボジア副首相兼国防相
- ・シンガポール国防相

◎ 17日⁴⁷

- ・北朝鮮国防副相
- ・モーリタニア国防相
- ・ガボン国防相
- ・ソマリア国防相

◇ 張昇民中央軍委副主席との会談

◎ 16日⁴⁸

- ・越副首相兼国防相

◎ 17日⁴⁹

- ・インドネシア国防相

○ 中豪第10回国防部実務会合⁵⁰

9月17日、北京で第10回中豪国防省実務会合が開催。双方は、両軍関係、海空の安全、および共通の関心事である国際・地域問題について率直かつ踏み込んだ意見交換を行い、相互理解と信頼を深めた。

○ 米中首脳会談時の軍関連合意⁵¹

9月23～25日の習近平国家主席訪米間、米中両軍は危機発生時の意思疎通及びその予防措置強化に関する覚書の早期署名と中国における米軍行方不明者の遺骨搜索の協力継続に合意した。

【コメント】

露戦略演習「ツェントル-2026」に参加し、中露軍事協力を深化させる一方、米国との交流も強化した。

台湾侵攻を主任務とする東部戦区司令官・楊志斌上將が「2026年アジア太平洋国防軍司令官会議」に出席し、米太平洋司令官パパロ大將と会談し、高官レベルでの意思疎通の窓口を維持することの重要性について協議した。

また、習国家主席の訪米間、米中両軍は危機発生時の意思疎通及びその予防措置強化に関する覚書の早期署名合意しており、当面は米中双方とも衝突は回避したいとのことであろう。習近平主席にとっては経済回復や来年の党大会での権力基盤の強化、トランプ米大統領にとっては中間選挙やイラン戦争の出口戦略をそれぞれ優先したいとの思惑があると考えられる。

(3) 海外基地の新設

○ 中国・ラオス両軍バンゲン空港共同保障訓練センター及び中国・ラオス友誼航空学院の開設⁵²

9月27日、中・ラオス両軍バンゲン空港共同保障訓練センター及び中国・ラオス友誼航空学院が正式に発足した。ラオス空軍パイロットの育成・訓練を支援するものであり、双方が共同で運営を行う。

中国の共同保障訓練センター



【コメント】

中・ラオスバンゲン空港共同保障訓練センターは、2017年の中国人民解放軍駐ジブチ保障基地、2025年の中国カンボジア・リアム港行動保障訓練センターに次ぐ3つ目の中国軍の海外基地であり、空軍基地としては初めての開設となる。

9月30日の衛星画像では、2000m級の滑走路1本と練習機の可能性のある航空機が8機確認されることから、中国空軍機の使用は可能なものの、当面はラオス空軍パイロットの育成・訓練支援に使用されると思われる。中国が国境問題を抱えるインドや比、マラッカ海峡に対しては、中国国内や南シナ海人工島の飛行場を使用したほうが距離的にも後方支援的にも有利なことから、戦術的な意義は大きくないものの、ASEAN加盟国で中国軍基地を保有する国が2か国に増えたことは、同地域における中国の影響強化の証左と言える。

【参考文献】

- 1 新華社 20260921
<https://www.news.cn/politics/20260921/ed84cef8e5ad411e9ebf80c5f43e375e/c.html>
- 2 AEP20260922
<https://www.afp.com/en/two-new-zealand-naval-ships-transit-taiwan-strait>
- 3 国防部網 20260924
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16488990.html>
- 4 海洋委員會海巡署 20260908
<https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=168921&ctNode=650&mp=999>
海洋委員會海巡署 20260908
<https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=168933&ctNode=650&mp=999>
海洋委員會海巡署 20260910
<https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=168960&ctNode=650&mp=999>
海洋委員會海巡署 20260911
<https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=168966&ctNode=650&mp=999>
海洋委員會海巡署 20260929
<https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=169091&ctNode=650&mp=999>
- 5 中国海警微信 20260929
<https://mp.weixin.qq.com/s/zkfVtld10i6k7ajFbAv-TA>
- 6 海洋委員會海巡署 20260907
<https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=168917&ctNode=650&mp=999>
- 7 中国海警微信 20260903
<https://mp.weixin.qq.com/s/IX84K5pX-BadIbZu8O9rHw>
- 8 中国海警 20260929
https://www.ccg.gov.cn/hjyw/202609/t20260929_3238.html
- 9 海洋委員會海巡署 20260929
<https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=169104&ctNode=650&mp=999>
- 10 第 11 管区海上保安本部 20260917
https://www.kaiho.mlit.go.jp/info/topics/files/260918_chousasen1-1.pdf
第 11 管区海上保安本部 20260918
https://www.kaiho.mlit.go.jp/info/topics/files/260918_chousasen1-3.pdf
- 11 第 11 管区海上保安本部 20260918
https://www.kaiho.mlit.go.jp/info/topics/files/260918_chousasen1.pdf
- 12 解放軍報 20260910
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20260910/c1a528f801b6be7363106587bcbe3b43.pdf>
- 13 解放軍報 20260903
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20260903/2bf52ded8fbd421871fe42683c3477d5.pdf>
- 14 中国軍網 20260914

<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16486340.html>

15 解放軍報 20260917
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20260917/97dc1fd8f7a5cffa443ab68e0e93581a.pdf>

16 解放軍報 20260918
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20260918/348408e91d222a702df9f299f88bf92e.pdf>

17 解放軍報 20260918
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20260918/ae3d0586791cde4fc4b5523ffb7b28f8.pdf>

18 國防部網 20260924
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16488990.html>

19 · 20 · 21 解放軍報 20260928
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20260928/5ae21dd34e927fc884945a67d026090a.pdf>

22 X : Jay Tarriela 20260910
<https://x.com/jaytaryela/status/2097879076853961041>

23 海警微博 20260918
<https://weibo.com/6586732953/RiFCpl7aj>

24 X:jaytaryela20260918
<https://x.com/jaytaryela>

25 南部戰區微信 20260902
<https://mp.weixin.qq.com/s/zJpuvPF9UhCWJLez7owv2A>

26 南部戰區微信 20260927
<https://mp.weixin.qq.com/s/T0M9C6rraiEqfOlBuwe27Q>

27 南部戰區微信 20260930
<https://mp.weixin.qq.com/s/6BvWrI9TBrCasXz0EjAi0Q>

28 中國海警局 20260927
https://www.ccg.gov.cn/hjyw/202609/t20260927_3235.html

29 環球網 20260927
<https://mil.huanqiu.com/article/4TNhgM1gHde>

30 海警微信 20260930
<https://mp.weixin.qq.com/s/FJbvGMlIV5fWsWE1j-Uf1Q>

31 國防部網 20260925
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16489289.html>

32 X:Jay Tarriela (比沿岸警備隊報道官) 20260925
<https://x.com/jaytaryela/status/2103350739175420082>

33 Philippine News Agency20260925
<https://www.pna.gov.ph/articles/1284825>

34 中國軍網 20260904
http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2026-09-04&paperNumber=04&articleid=985988

35 中国軍網 20260907
http://www.81.cn/szb_223187/szbqxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2026-09-07&paperNumber=02&articleid=986157

36 国防部網 20260905
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16483562.html>

37 中国軍網 20260905
http://www.81.cn/yw_208727/16483866.html

38 中国軍網 20260921
http://www.81.cn/yw_208727/16487979.html

39 中国軍網 20261003
http://www.81.cn/yw_208727/16490922.html

40 国防部網 20260905
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16483562.html>

41 国防部網 20260905
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16483728.html>

42 米太平洋軍 20260903
<https://www.pacom.mil/Media/News/News-Articles/Article/4591082/readout-of-adm-samuel-j-paparos-meetings-on-the-sidelines-of-the-indo-pacific-c/>

43 国防部網 20260915
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16486407.html>

44 中国軍網 20260916
http://www.81.cn/yw_208727/16486738.html

45 中国軍網 20260915
http://www.81.cn/yw_208727/16486621.html

46 中国軍網 20260916
http://www.81.cn/yw_208727/16486847.html

47 中国軍網 20260917
http://www.81.cn/yw_208727/16487040.html

48 中国軍網 20260916
http://www.81.cn/yw_208727/16486838.html

49 中国軍網 20260917
http://www.81.cn/yw_208727/16487033.html

50 国防部網 20260918
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16487078.html>

51 新華網 20260926
<https://www.news.cn/20260926/afe6fbfdfaa74094b53a5f9c2ec1e772/c.html>

52 国防部網 20260929
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16490186.html>

中国軍事動向月報 2026年9月

2026年10月5日発行

公益財団法人国家基本問題研究所
〒102-0093

東京都千代田区平河町2-6-1
平河町ビル5階

本書の無断転載、複写、複製を禁じます。